

DEPARTMENT OF PRIME MOVER ENGINEERING AND MECHANICAL ENGINEERING

Kiyu

20号

東海大学機友会事務局

湘南校舎 動力機械工学科事務室
〒259-12 神奈川県平塚市北金目1117
TEL:0463-58-1211内4321 FAX:0463-59-8293
発行人 河西正彦 編集 山口則雄
印刷 信友印刷株式会社 TEL:03-3444-2481 (代)

東海大学機友会々報

萩 三二先生筆



第10回機友会懇親会

第八回機友会総会開催

河西会長から伊藤新会長へ
新役員人事改選承認される!!

平成九年十一月三日(文化の日)湘南校舎十二号館三階301製図室において午後十三時より評議委員会と総会が開催されました。司会に内山理事、議長に河西理事、副議長に伊藤理事、書記に河合理事を選出して、重要事項の審議を行ない、承認決議されました。その中で、来期(平成九年四月より)機友会会長を伊藤和義(六十五年卒)新任・会計監事長には佐々木彰(六十

四年)留任・副会計監事に伊藤昌夫(六十五年卒)留任の新役員人事が承認されました。これより初代会長小林隆氏第三代会長河西正彦氏そして第三代会長として伊藤和義氏へと、バトンタッチされました。

河西会長は、機友会十五年の歴史の中で、副会長職を二期六年、会長職を二期九年の長きに渡り、創設から今日までの機友会の発展に多大な貢献をなされ、その結果今日の確固たる基盤を築きあげられました。本堂に「苦勞様でした。」今後は顧問役として、より機友会の対外活動に尽力をいただきたいとの事、なお一層のご活躍をお願い申し上げます。また、後に続く伊藤新会長をはじめ各新役員も心新たに更なる飛躍へと邁進いたす決意を総会にて再確認いたしました。

今後とも皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

その他の審議事項として

一、予算・決算報告

(今回は過去三年間の年度決算の他に予算案を審議しました。)

二、監査報告

(別途報告「一覧表掲載」)

三、事業報告

(河西会長より活動報告)

(賛助会員制度設立及び学外事務局を開設報告'96年開始)

(学科への研究補助金制度開設、予算十万円'95年開始)

(会報年二回発行、「卒業のしおり」

製作配布・発送

(理事会を毎月開催)

(組織部としてパソコンを購入設置
会員のデーター・メンテナンス及び
名簿発行の為版出作成ソフト導入'96
年開催)

第十回機友会懇親会開催

平成九年十一月三日総会の後、場所を移動し、「松前会館」にて、第十回懇親会が開催されました。今年も、ご来賓の方々をはじめ、教職員の方々と卒業生の皆様のご家族で多数の参加をいただきました。

同窓時代のお話から、現在のご活躍のお話まで飛びだして大変盛況でした。本年は総会開催の為遠方からの参加が多く目立ちました。特に台湾からご参加の陳敦化様(六十七年)には一同ビックリいたしました。東海大学も世界中で活躍していることを実感致しました。

ご祝辞を主任教授の林守仁先生および本部同窓会の増澤様からいただきました。機友会の活動を高く評価をいただきました。誠に有難うございます。今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。余興の部として、本年はピンゴゲームでなくダーツ競技にて景品争奪戦を繰り広げました。「お子様には運でなく実力の世界も教育の一環では」との担当山田理事談もあり、結構皆様真剣な様子でした。また本年は総会準備の為、バザーはやむなく中止をいたしました。来年は開催する様にいたしますので、是非十一月二日午後三時「松前会館」にお集まり下さい!!



水と空気と環境の明日を考える...

荏原グループ

荏原製作所・荏原サービス・荏原プラント建設・マツボー
荏原環境エンジニアリング・荏原エンジニアリングサービス
大岩機器工業所・荏原電産・荏原シンワ・荏原商事 他

機友会会長の交代に当たって

会長 河西 正彦



機友会会長を平成九年三月末に交代するにあたり、一言挨拶を申し上げます。私は機友会の副会長を六年、会長を九年の十五年と会設立以来、責任者の一人として活動にあたりつてまいりました。設立準備の頃、本多君を「機友会」として定年する段階から深くかわれたことを思い出すと、よくここまで役員を続けられたと感慨無量です。この中で最も腐心したのが、学科との信頼感の構築でありました。公認の学科同窓会とはいえず、とかくこの種の団体は、本来の主旨をいかにして維持し、発展させることが必要で、有るより無いほうが良いとされる所以です。これを克服しない限り、会の在るべき姿にならないので、会報の発行等定期作業以外に、この見落としがちな会の姿勢に注意してまいりました。教職員が同級生、下級生であっても、学内においては、先生とお世話になった卒業生である関係として、卒業生の範を示す謙虚な態度で臨むことを役員にお願いしたのもこのためです。年々このような成果が活動の土台となったでしょう。やがて全役員は、学科教職員の援助に支えられて、様々な問題があるたびに会の主旨を貫き、役員個々の資質の向上、相互の結束を相俟って母体である学科との信頼感が醸成されてい

たのです。いまでは普通の行事になっている毎年の卒業式で、大勢の方々が見守るなか、堂々と機友会が優秀な後輩たちへと授与されること一つあけても、この成果は会と学科の信頼の結晶であって、この卒業の背景にもドラマがあったことを決して忘れてはなりません。あとに続く役員への申し送り事項の筆頭にあげておきたいと考えています。

今後の会の活動内容は、今までは、会前にある活動項目の実行に傾注し、広げる方向でまいりましたが、これからは、事業の一つひとつの充実と努めることにもなるものと思われまます。ただし地方支部の設立については、継続して実行する方向です。現在の活動は次の通りです。年一回の会報・九十人の名簿・かわら版(情報誌)・卒業アルバム(しおり)の編集発行・オリエンテーション参加・卒業謝恩会・会社訪問卒業生激励・建築懇親会・学科懇親会・機友会・学科同窓会連絡会・機友会・学科同窓会・機友会・学科同窓会・毎月(理事)会・分科会・三年一回の総会開催・会報・会費のパソコン管理・本部同窓会情報交換(校友誌、賛助会員の管理・連絡)・地方支部設立・卒業生・会員への郵送作業・会計・決算・収納・会計監査およびその他付帯事項

このように機友会活動は多くの事業を実施してきました。学科におかれましては、会費足当初から、機友会の扱いは前例がなく、ご迷惑をお掛けして参りましたが、心苦しく思いますが、活動の成果を御覧いただければ幸いです。

最後に、学科のますますの発展を祈念し、また私も機友会の将来に期待をお寄せくださり協力くださった、教職員ならびに本部校友各位に、衷心より感謝の意を表しまして、会長交代のご挨拶といたします。

(昭和四十一年度卒)

ご挨拶にかえて

新会長 伊藤 和義



平成九年度の新年を迎え、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今、日本経済はバブル崩壊後の厳しい経営環境に置かれており、各企業は生き残りを掛け合理化等を実施し、財務体質改善に向け懸命に努力しております。又、国際競争力に打ち勝つ為、製造業各社の海外進出は必然的に推進されるでしょう。

この結果、社会は高度化現象が起こり、西暦二〇〇〇年には、製造業で約百万人以上の働手が現在より余剰になるとおられております。このような環境下、会員約九〇〇〇人となった機友会も厳しい財源逼迫の中での活動を、余儀なくされております。私は平成九年四月より機友会会長としての職務をお受けつたりますが、責任の大きさに若干心を重くしております。

未熟者故に至らぬ事が多いことと思いますが、皆様の御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。今後の機友会活動は、河内前会長の方針を受け継ぎ、理事全員が力を結集して「事に当たりたい」と思いますが、又、各理事はそれぞれの職場で多忙な毎日を送っておりますが、心気は、一、学校・企業等内に止まらず、社会に於いて存在感を示せること。

二、機友会活動のボランティアは、社会に對する奉仕だけでなく個人の発展に繋がります。

三、東海大学及び機友会役員各位の発展は次世代の人達の発展に繋がりますことを信じてお受けつたります。

具体的方針としては

一、現在年一回の新聞を発行しておりますが、前年と通年予算厳しいことから、年一回発行すれば良いとの意見もありましたが、「継続は力なり」の例えもある通り、新聞の内容も含め更なる充実を図り、年一回の発行を継続したい。

二、東海大学・本部動力機友会・学科に対し、僅少ですが研究補助金を贈呈しており、これも継続し、増額して行きたい。

三、機友会組織は、工学部系同窓会の一組織であり、全同窓会活動の活性化の為に、本部的な物の見方が必要であり、本部同窓会を含め他同窓会とも連絡を深めて、共に情報共有して行きたい。

四、機友会支部の設立は、機友会設立当初からの課題であり、実現に向け推進したい。

五、その他従前からの課題に付いては、皆様の御協力を得ながら学科等関係部署とも連携を図り、実行解決して行きたいと思っております。

尚、今の機友会組織は発展途上であり、会員の皆様の御支援と工学関係者の後押しが力強い見方となっております。又、更なる充実した活動を図るには、会員の皆様の積極的な参加が是非とも必要です。活動に興味をお持ちの方は、御参加下さるよう、お待ち申し上げております。

最後に会員の皆様方の御健勝と御活躍を心より祈りして、御挨拶と致します。

(昭和四十年度卒)

内外国の特許・実用新案・意匠・商標・サービスマーク・鑑定 等

発明・ノウハウの相談受付

特許権(出願中)も担保として融資実施化

岩堀特許事務所

弁理士 岩堀邦男(68年機械卒、91年通信卒)

〒107 東京都港区赤坂4-3-1 共同ビル赤坂513号
地下鉄赤坂見附駅・赤坂駅下車3分
電話東京03-3587-1625



教育用・病院用機材の
コンサルタント

東海教育産業株式会社

代表取締役 谷 越 安 男

本社 神奈川県伊勢原市下粕屋164番地 ☎0463-92-1881(代)
湘南営業所 神奈川県秦野市南矢名1丁目5番13号 ☎0463-78-5671(代)

平成八年度卒業研究発表会・ 謝恩会開催される



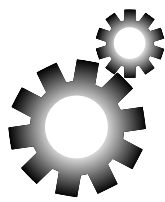
研究補助金贈呈

研究発表会終了後、全員による謝恩会を午後六時より海老名のグランドホテルにて盛大に催されました。

始めに謝恩会幹事長の五十嵐雄一君より卒研生を代表して各先生方に謝辞を述べられました。続いて来賓を代表して林守仁主任教授の祝辞、機友会を代表して河西正彦会長が祝辞を述べられました。卒研生より感謝の気持ちを込め、花束が各先生方の代表として林守仁主任教授に手渡されました。機友会はこの場をお借りして、会員を代表して学科へ平成九年度研究補助金、金一〇万円を河西会長より林主任教授へ贈呈されました。この補助金は、学科の方から二研究室におわたしされることになっていきます。昨年度は、谷田研究室と福田研究室で御利用され、先生方からは、御礼として礼状、書籍を機友会にいただいております。研究の一助となることを期待申し上げます。

ひきつづき康井義明副工学科長の音頭による乾杯に引き続き、ビンゴ大会が行なわれるなどして謝恩会は盛況のうちに終了。二次会へと席を移して行きました。

なお第三工学部機械工学科の卒研生による謝恩会は三月二十五日(火)の卒業式終了後松前会館にて催されます。



平成九年二月十三日と十四日にそれぞれ平成八年度動力機械工学科並びに、第二工学部機械工学科の卒業研究発表会が湘南校舎及び代々木校舎で開催されました。

動力機械科の卒業生は各研究室での一年間の研究成果を果敢に発表し質疑応答が活発にくり返されました。発表された研究内容は現代社会が求めている基礎的なものが多く大変質の高いものが出来上っておりまして、これから一般社会へ出て行く卒業生の力強いバックボーンとなる事でしょう。就職先の各会社での健康をお祈りします。又第三工学部機械工学科の卒研生は実社会に沿った研究内容が多く大変立派な発表会となりました。

工学部動力機械工学科卒研生は卒業

セメスター制導入にあたり 第二工学部機械工学科では

一九九七年四月より、東海大学ではセメスター制度が始動する(詳細については会報十九号参照)。これによって授業や卒研の形態が大きな変革を遂げることになる。学生の三分の一弱が社会人という第二工学部機械工学科でも、学生の個性や能力にあったカリキュラム作成に試行錯誤を重ね、時には望遠の選択を強いられる場合も少なくない。

そんな折、機械工学科副主任教授石橋一久先生にお話を聞くチャンスが得られた。この先、誰もが手探りで、次の展望もはつきりしないという時期に、石橋教授は「学力は関係ない、要は『やる気』と力説した。

自己および企業推薦、そして高校(付属)推薦や一般入試と、様々なルートから入学され、学力レベルが多様な学生が在籍する機械工学科は、学問的環境から離れた学生もあり、必然的に入学時にはレベル合わせが必要になる。そこで第一、二セメスター(旧一年時)には、少人数制の機械工学基礎クラス(週一回)を設け、機械工学の最小限の知識をここでたたき込む。基礎がない場合には、専任教員全員で学生が理解するまで徹底的に指導を行う。実験を通じての教育は第四セメスター(旧二年時後期)から開始し、第五、六セメスター(旧三年時)には少人数のメカトロ、CAD/CAM等の実用技術の拾得に力点を置く。また、企業からのロボット(川崎重工(株)ピューマ)の寄贈もあり学生実験に活用している。

ここで驚くべきは、機械工学の主要基幹

科目である四力(流体力学、熱力学、材料力学、機械力学)を選択科目にし、手でやる実験・実習・演習科目を積極的に奨励するという、かなり思い切った選択である。

第六セメスター(旧三年時後期)のゼミナールでは、ブレ卒研とでも言うべきが、卒研への助走期間を設け研究室の縦のつながりを重視している。特に第七、八セメスター(旧四年時)におこなう卒研は、専任教員の各研究室の横の拡がりを総動員して、鳥人間コンテスト、ソーラーカーレース、ロボットコンテストへの出場をめざし、「遊びながら自分たちで工夫する、モノづくりの原点」を模索していく。希望があれば第六セメスター在籍の学生でも卒研に参加できるようなのである。とにかくモノづくりにはお金がかかる、どこかの企業から援助がないかな……と愚痴を漏らして、先生のお話は終わった。

第二工学部機械工学科の新年度は、社会人のように目的意識や勉強意欲のある学生にとっては授業選択に柔軟性があり、非常に魅力的なカリキュラムと考えられる。しかしそつでない学生に対しては、機械工学の基礎もわからないまま卒業させてしまう可能性もある。そうさせないためには、履修科目を学生の能力に合わせて、いかに選択させるか、指導にあたる教員の能力が評価される訳です。新年度は学生は当然ながら、教職員も創意工夫を要されると思われます。

次回は動力機械工学科の特集する予定です。

文責 編集部

総合設備・防災・セキュリティシステム

東亜電設株式会社

〒252 神奈川県藤沢市高倉1020-12 TEL (0466) 45-5611(代)

東海大学 学園だより

「東海カード」に加入下さい

同窓会運営の資金確保に「理解を

東海大学同窓会ではクレジットカード機能(VISA、マスターと提携)を持つ「東海カード」を発行して、同窓会員へのサービス活動を展開しています。提携する宿泊施設の利用やショッピングの際に独自の特典・優待制度が設けられているというものです。

同窓会には会員の利用度に応じてカード会社から手数料収入が入るシステムになっています。同窓会は年々員数を増やし二十万人体制を目前としておりますが、現行の制度だけでは収入に限界があり通償の拡大だけでも会の運営に支障を来しかねない状況にあります。そこで「東海カード」を発行し、会員と会運営の双方にメリットのある施策を導入したというわけです。

同窓会事務局では、会員の皆さんに理解いただき、ぜひ「東海カード」に加入いただきたいと考えております。ゴールドカード、家族会員カードの発行も可能ですので、事務局(電話03-34671221)までお問い合わせ下さい。入会申し込み書を折り返し送付いたします。

松前総長が新年式で挨拶
今年は「熟慮断行」の年に

一九九七年の学校法人東海大学の新年式が今年も全国各地で行われました。一月六日に代々木校舎で開かれた東京地区の新年式では、松前達郎総長が「昨年は望星



丸の世界一周研修航海を実施するなど多忙な一年だった。今年は丑年。昨年とがらりと変えて、じっくりと物事を考えて検討をしてその結論によって思い切り事を展開していく「熟慮断行」で決意を新たに前進したい」と年頭所感を語られ、学園の将来を共に開こうと呼びかけました。会員の皆様にも、今年が希望に満ちた一年となりますよう、お祈り申し上げます。

松前重義記念基金に
同窓会から百万円寄付

東海大学同窓会では、今年度も学校法人東海大学の「松前重義記念基金」に対して百万円の寄付をさせていただきました。この基金は学園の創立者である松前重義博士の理想実現に寄与する、学内外の教育・研究活動および事業に対する奨学金、助成等に活用されているものです。建学50周年記念事業の柱として一九九三年に原資十億円をスタートし、母校の諸活動の基盤を支えるファンデーションとしての役割が進められています。



昨年十一月にはこの基金を運用しての留学生、学生に対する奨学金の採用者が決まり授与式が行われたほか、今年一月二十二日には、クラブ活動などで日本一に輝いた団体、指導者に対する奨励賞ならびに教育方法の開発などで顕著な功績のあった教職員に対する奨励賞等の授与式が行われました。

同窓会では今後も松前重義基金に対して積極的に協力していこうという考えです。会員各位のご理解をお願い申し上げます。

箱根駅伝今年もシード権獲得
沿道での同窓会員の応援が力に

東海大学関係者にとって、新年は箱根駅伝で幕を開けるといっても過言ではありません。東海大学陸上競技部は四半世紀にわたって箱根駅伝に連続出場しており、同窓会員の注目度も年々アップしてきています。特に昨年は総合四位という史上最高の成績をあげ、そのメンバーが六名も残っていただけに、同窓会の期待も大いに盛り上がりました。

今年も東海大学同窓会の東京ブロック、神奈川ブロックを中心とした校友会メンバーによる「箱根駅伝応援実行委員会」が組織され、沿道で華やかな応援が繰り広げられました。さらに今年は応援実行委員会に現役生も参加し、前年より三カ所多い八カ所に応援場所を設定して選手に声援が送られました。

大手町、日比谷の二カ所には大勢の同窓生が集い、さながら同窓会のような様子でした。また川崎警察署前、東神奈川駅前、藤沢駅前の応援場所にも母校の幟(のぼり)を、目印に多くの会員が集まりました。まったく見知らず同士でも東海大学に声援を送ることで同窓であることを知り、選手が駆け去った後も話に花が咲いている光景がそこそこ見つけられました。平塚、大磯の応援地点ではお蔭だけに教職員の姿も目立ち、懐かしい恩師との再会の「こころ」もまた、ゴール近くの箱根郵便局前には応援団から学生たちが陣取り、ここに足を運んだ同窓会員らに最近の学校の様子を尋ねられる姿もありました。

大会は東京・大手町と箱根・芦ノ湖を往復する約一百二十キロのコースで行われ、十五大学が日ごろの練習の成果を競いあいました。東海大学は往路一区で十三位と出遅れましたが、チームが一丸となり徐々に順位を上げ、往路は七位の成績でゴールしました。復路はメンバーのいずれもが風邪や故障で不安を抱える状況でしたが、粘って十位でゴールに飛び込む総合八位で来年の出場権(シード権)を獲得しました。

なお、同窓会では来年の箱根駅伝でも応援プロジェクトを実施する予定です。応援場所や時間などは十二月中旬に東海大学同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

東芝特約店(金属・新素材) 金属材料・新素材・金属CVD装置・半導体用ガス・各種設備(設計・施工)の専門商社



ウエキコーポレーション

《旧社名：ウエキガス科学(株)》

本社 〒146 東京都大田区久が原5丁目33番10号

TEL (03) 3753-2211 FAX (03) 3753-7117

支店 北日本・北関東・相模原 事業所 泉・姫路・北九州・大分・小向・堀川町・横浜

営業所 埼玉・横浜・大阪 出張所 浜松・名古屋・新潟・北上 駐在所 四日市

本社勤務 水口 直(S47年修士卒)
本社勤務 日向野保雄(S52年卒)
本社勤務 奥山俊英(S54年卒)
本社勤務 七澤浩史(H6年卒)
本社勤務 外谷浩一(H8年卒)
本社勤務 中台武志(H9年卒)

会社訪問

環境保全こそ私たちの最大のテーマです
荏原サービス株式会社

今回の訪問先企業は「環境保全こそ私たちの最大のテーマです」の荏原サービス株式会社です。

同社は、東京の空の玄関口大田区の羽田空港に隣接しています。

当日は飯島教授、河西会長、伊藤副会長、大矢理事、私(林)の五名で伺いましたので、報告させていただきます。

当日は同社の社長室にて大野社長を

はじめ藤野常務、高澤総務部長、中谷人事課長がご多忙の中を対応いただき会談が始まりました。

まず河西会長より日頃の機友会に対する荏原サービス株式会社のご支援に感謝が述べられました。続いて大野社長から会社概要についての紹介がありました。

同社は荏原製作所のサービス部門として昭和三十九年に設立し、主な業務として



所では荏原製作所・送風機・冷凍機等の単体機器のメンテナンスが主であり、営業範囲は北海道から沖縄まで日本全国を83カ所の支店・営業所・出張所・センターを配置し約九百三十名の社員が活躍しており、その内約四十名が東海大学の卒業生とのことです。

荏原グループは現在、「水と空気と環境」の分野で幅広く活躍され、水の分野では、河川浄化

設備、上下水道、発電所など公共設備など社会的責任の大きい施設、空気などの空調設備、そして環境の分野ではゴミ焼却炉、特に荏原独自の技術として開発された流動床焼却炉などがあげられました。

このように我々の目に直接触れることは少ない場所でも活躍している荏原製品でありますがマンシオン・病院・公共施設などのポンプ、冷凍機、クリーニングタワーなどの快適を支える建築設備機器の方が一の際には、迅速かつ確実な対処を実現するのが荏原サービス自慢のJES (JES Equipment Service) システムで一年365日・24時間対応しており、業界唯一の存在であり我々の強い味方です。

同サービスは基本的に荏原製品に対してでありますが、首都圏での緊急対応の六〇七割が他社製品であるとのことです。これも長い目で見れば荏原に対する信頼につながる為に対応しています。緊急対応の連絡は東京の平和島にあるセンターで全て受け入れ全国へと連絡がされます。緊急対応へは荏原サービス社員他、協力会社へと振り分けられます。つまり従業員一人一人が会社の顔として客先に於いての仕事なので高い技術力と、人間性が重要とされます。その為の従業員教育、研修は協力会社従業員の教育も含め千三百人/月も荏原サービスが行っているとのことでもあります。現在国内サービスが主ですが、海外に設置された設備に対してはスパーバイザーとしての短期出張指導も行っており、将来は国際的な営業展開も考える必要が

でてくると思います。活躍の場は益々増えてくると思われます。

そんな中で東海大学卒業生の印象を聞いてみたところ、近年の卒業生は真面目で実質的、おとなしいが仕事はよくこなす。少し自己アピールがたりなく感じられ、少し前の先輩みたいに型破りの(某理事?)な所があつてもよいのではないかと指摘がありました。現在ではCMP(半導体ウエハーの研磨機)など幅広い設備に対応していかなければならず、電気・機械両方の仕事ができ、パソコンの怖くない人が必要とされています。

会談は当初予定されていた時間を大幅に超え約二時間が瞬く間に終了いたしました。終了後、就業時間も終わりましたので機友会メンバーの溝尾氏、鈴木氏をして、中谷課長、荏原望星会の望月氏、小杉氏をして、荏原サービスOBの高橋氏を囲み空港近くで懇談いたしました。先ほど話題になった先輩を前にしてまだ入社一二年の溝尾氏、鈴木氏に河西会長より激励の言葉がかけられました。柳川氏はゴルフがシングルの腕前と大野社長より聞いていましたので皆さん熱心に講義を拝聴している姿が見受けられました。日頃工業高校に勤務する私にとっては大変勉強になり、これからの進路指導に役立てたいと思う一日でした。

最後に、今回お世話になりました荏原サービス株式会社の大野社長を始め関係者の方々そして諸先輩の皆様にお礼申し上げます。

記 機友会理事 林 正順



荏原サービスは、ポンプ業界最大手の荏原製作所グループの一員として「水と空気と環境」をテーマに「世界の人々の豊かな将来のために最上の技術とサービスで広く社会に貢献する」ことを企業理念としている会社です。

荏原サービス株式会社

一人材こそ、私たちの最大の資源です

本社：東京都大田区羽田
資本金：4億5千万円
従業員：900名
年商：283億円
(平成7年度実績)

〒144 東京都大田区羽田旭町13-3 TEL03-3743-7311(代)

卒業生 柳川雅春(S45) 小野寺道(S45) 柴田 慎(S51) 田中睦子(S53) 鈴木浩司(S59)
中村勝彦(S62) 永田 剛(H5) 平野俊次(H5) 畦地一彦(H5) 菊川 直(H5)
池田一訓(H6) 井原聖一(H6) 田中 隆(H6) 鈴木剛志(H7) 望月義貴(H7)
溝尾達也(H8) 丹 克利(H8) 森崎 天(H8) 藤村雅信(H8) 河元友香里(H8)

卒業生の声 「野鳥の会」について

東京都水道局・三國浄水管理事務所
技術課
(第二工学部機械工学科平成6年度卒)

佐藤 礼尚



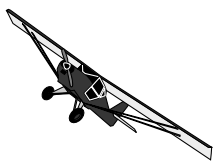
充実した大学生活を終え、就職してから約2年になります。私は、卒業研究「軽量滑空機の研究・試作」において、毎年夏に琵琶湖で行われる「鳥人間コンテスト選手権大会」に参加することができました。卒業後2年が経過した今でも仲間と共に機体を製作する楽しさ、大会に参加する喜び、感動そして良い結果を残すことのできなかつた悔しさ等々を忘れられずにいます。現在、我々「幸尾・奥川研」OBのメンバーは、同期を中心に「夜鳥の会」を結成、同大会出場を目指して活動を行っています。

会として活動を開始し、限られた時間と少ない材料、予算、設備で機体を製作することはとても難しいと実感しています。活動場所を確保するのもにも苦勞する現在、改めて、大学という恵まれた環境の中で研究ができたことに感謝しています。学生時代を思い返してみると、私は、科学技術庁航空宇宙技術研究所において最新の技術を用いた飛行シミュレーション実験等の研究

を行うことができました。このような経験は、会の活動の重要なデータとなつたことは言うまでもなく、機械屋として必要なセンスを身につける上でも非常に有意義であつたと思います。

「夜鳥の会」は、昨年度大学を退退された幸尾治朗先生を顧問に迎え、人数は約20名、平成6年度卒業の「幸尾・奥川研」全員と同研究室OB、及び、その友人等により構成されています。我々がこのような活動を行うようになったきっかけには、同研究室で在学中、第18回大会参加後に他界した加藤泰山君のことがあります。もう一度彼と共に滑空機を飛ばしたいという思いが仲間全員の胸の内にあります。彼の滑空機に懸けた情熱と残した研究成果は会の活動の基礎となっており、我々は製作する機体の名称を「泰山号」とすることにしました。

現在、同大会の出場申込み期限が3月であることから、4月に本格的に始動する卒研生が研究の成果として機体を製作することは困難です。我々が研究を開始した当初はOBの方々のアイデアや意見が非常に役立ったことを覚えています。我々「夜鳥の会」の活動が、現在の「奥川研」の研究の一助となると共に、卒研生たちと一緒に琵琶湖の舞台で飛行できることを楽しみにしています。



卒業生の声 台湾・高雄から

三ツツテから見た世界の使命
紀光公司・チーフマネージャー
(第二工学部機械工学科昭和42年度卒)

陳 敦化



機友会の皆様こんにちは！

私は1958年台湾の短大・商船大学を卒業して台湾政府高雄港務局の役人になりました。当時の台湾生は卒業後2〜3年で結婚して、自分の小さい家庭を作るのが普通で、私も27歳の時に結婚し、幸せな生活をしております。当時の政府は非常時代の軍事政権でした。台湾政府は大陸から台湾に撤退してきた政権で、いつも大陸への反攻の準備をしていました。そのため台湾は非常に重要な軍事用地で、局長はすべて海軍出身の将軍が就任するというのが常識で、一般の大学卒業生は議長までしかありませんでした。言論の自由も勿論制限されました。特に第一、第二次世界大戦の原因で、日本語は公の場所では完全に禁止されました。ある時偶然に仕事の関係で日本の技術者と接触する機会があり、日本のことをいろいろ聞くうちに私は別の世界に非常に興味を持ちました。早速第二、第二次世界大戦前日本で教育を受けた先生に日本語を習いはじめ、翌年、月留學試験を受け合格し、早稲田大学に入学しました。だが学費の

高いこと、留學生の多いこと、また学習環境が私が想像していたものと全く異なり、早稲田大学には違和感を感じました。そんな折りに東海大学の黄燕清教授(金属工学科)にお逢いし、事情を説明して東海大学に転学させていただきました。そして第二、工学部の機械工学科(当時の主任教授は菅野孝助先生)で勉強させていただきました。

これまで私の述べたことは、人生の転換点でした。これは宗教(仏教)でいう「縁」と言うてもよいか思います。私は学問するために日本に留學しましたが実際には勉学は自分の期待していたほどにはできませんでしたが、勉学以外では沢山のものを得ることができ、またそれは非常にその後の私の人生に役立ちました。それは次の二点です。

一、始めて自由というものの真の意味とその素晴らしさを知つたこと。

二、自由世界での生活方法を味わつたこと。東海大学を卒業し、台湾に帰国した私は国際貿易の仕事につきました。対象は欧州各国で機械輸入業務、特に海運建設が主です。北欧人や西ヨーロッパ人と接して感じたのは彼らは日本人と全く違う特性を持ち、またフィンランド・オランダ・ドイツ・スペイン人もそれぞれの特性が異なり、容易に民族の違いを見分けることができました。だんだんと朝小民族・台湾人の苦しみ

が眼の前に立ちあがってきたのを感じました。国は大切ですが、より大切なのはそこに住む人々の考えや共同意識です。またそこでは民主主義というものが非常に大切になってきます。私はその民主主義は次のようなものだと思います。

一、個人も民族も責任感を持ち、裁判も公平でなければならぬ。

二、環境及び自然に対する責任感を教育すること。

三、公務員は人民を管理するが、その公務員は人民によつて選ばれる。

四、法律の適用は公平で、それは民意によつて改正できる。

以上のことは台湾についての私の意見です。今日の世界では、人々の活動範囲が広くなり、国境がなくなりつつあります。そして人類共有の良好な環境と公正な法律や規則をつくるのが大切な時代になりました。

特に経済の世界については、未開発国や開発途上国が日本の経済に対して、強い警戒心を持ち、日本人は強い民族意識を持っています。その点において、日本人は世界に通用するような責任感をもっていないと、日本といろいろな国の衝突は避けられないと私は思います。私は日本に留學し、日本が敗戦の劣勢な環境から今日の豊かな経済的および技術的な強国になつていく姿を自分の眼で見ました。その経験から東海大学の後輩の皆様に申し上げたいことは次のことです。

技術者は政治に無関心でもよいと昔からよく言われますが、今日の日本の製品は世界の各地で、又沢山の人々に使われています。すなわち製品を通じて技術者も世界中の人との関連ができてきますので日本の技術者が世界的な視野をもつ必要があります。

この点を皆様の心の中に置いていただけたらと、私は思います。最後に隣国台湾の留學生から、懐かしい日本の東海大学の皆様の健康と活躍を、および東海大学の益々の発展をお祈りいたします。台湾(高雄)にお越しの際は是非「二報下」。

在校生の声

大学生生活の意義

工学部動力機械工学科四年 佐野研究室
謝恩会幹事長

五十嵐 雄一



大学に入学して早くも四年という月日がたつ。誰もが思うことかもしれないが、この四年間はとても短く感じられた。

大学生生活は今まで送ってきた学生生活とは異なる部分が多かった。特に自分たちの教室も今までのような担任の先生がいるわけでもなく、ほとんどが学生の自主性に任されていた。大学では学問の追求が主な目的と考えていたが、社会人になるための勉強もさせていた。だいたいのことに気づいたのは、大学生活の意義を考え出した最近である。

大学生生活の意義を考えだしてからは、今までの後悔をおこなうのではなく、残された時間の中で何をすべきかを考えている。その方が明らかに有用であると考ええるからである。

卒業を迎える学生は新しい生活へ向けて準備を始めているであろう。是非大学生生活を土台として素晴らしいスタートを切ってもらいたい。在校生の皆さんには大学生生活の意義を早く見つけだし、時間を大切にしてもらいたい。

在校生の声

大学生生活を振り返って

工学部動力機械工学科四年 鈴木 聡 研究室
謝恩会副幹事長

福吉 顕英



大学生生活における四年間は、私にとって非常に短く感じられ、もう卒業目前というところまで来ている。しかし、この短く感じられた大学生生活も中身は濃く、非常に充実したものであったと思う。

大学生生活のみならず、生活すべてにおいて人生の経験値をためる場として考えているが、四年間の大学生生活、特に四年次にあたる最後の一年間でためた経験値は、それまでの三年間におけるものと質、量ともに匹敵するものとなった。卒業研究においては、三年までの講義の雰囲気とはがらりと変わり研究室という呼び名が相応しいものになってきた。ここで、毎日夜遅く、時には徹夜してまで研究に没頭し、一致団結して一つのことを成し遂げるなどのすばらしさと大変さを知った。また、大学生生活で得た大きなものの一つに人間関係の広がりがある。先生ならびに先輩の方々、級友に拘わらず多くの人に接し、自分の持っていない経験値を吸収するべきである。最後に、多くの経験値を与えて下さった方々に、心より感謝します。

在校生の声

ふと、中庭のベンチで

第三工学部機械工学科 村上研究室
遠藤 威信

閑静な住宅街と心地よい昼下がり。漂わず代々木にあるこの校舎。そこには様々な人間模様と歴史が凝縮されている。そんな校内の中庭を卒研の台間に何の意味もなくただ無駄に過ごすのが、僕なりの昼抜きの一つである。この門を通り始めた頃、僕は将来への期待と不安を消化するがために、己の好奇心と欲求を無駄にまき散らしていた。決して利口ではないと承知で、無謂世渡り上手な者はしたたか且つ平常心を保ち続け失敗を恐れぬ先駆者として希望の念を抱いているのではなからうか。今後の人生を考えると反省すべき点が浮き彫りになる。そして、今こそ転機期と常に思いながらも通り過ぎていった。

今現在四年間の終焉を迎え、大学での専門の追求に投じた勉強と同時に、社会人並の責任感を踏まえて動いて仕事でできたのは第三工学部が持つ類い希な特色であり誇りに思う。だが単にそれに頼り着れば進歩はなく滞る。まさに、まったりと流れる時間のアイデンティティの世界だが、実際は複雑且つ流動的な現代における目確立が必要なのだ。いま僕は感情に揺れてる奇抜な文に象られた身館の傍らのベンチで、今後の僕の歴史動向を探求している。

在校生の声

大学生生活を振り返って

大学院 理工学研究所 幸重 政 谷田研究室
歳桃 庸男

私が本学工学部動力機械工学科に入学して、早いもので六年の月日が流れた。私にとってこの六年間は最も充実した日々を送ることが出来たと自負している。その中で、友人と恩師との出会いは大学生生活で最高の収穫であった。その友人たちは、私とは違った道をそれぞれ歩んでいるが、今でも互いに連絡を取り、親しくしている。

そして社会人としては先輩でもある彼らに教えられることもしばしばである。

また、自分の卒業研究の指導教員であった林義正教授との出会いは、人生の大きな転点となった。それまで諦めていた自分の夢をもう一度目指す勇氣と力を林義正教授から与えて頂いた。又、大学院に進学し、とまどいと混乱の中にいる私のことを暖かく、かつ厳しく御指導下さった谷田好通教授との出会いも、学生生活の大きな出来事となった。

最後に、御支援、御指導下さいました先生並びに先輩の方々、そして友人に深く感謝いたします。

メカトロニクス研究開発



イースタン技研株式会社

資本金 5,000万円

取締役社長 河西正彦(昭和41年度機械科卒)

(イースタングループ 従業員総数2,000名)

○放電加工機及び周辺機器、電極

○メカトロ専用機、電子機器、精密金型・治工具

本社 〒242 神奈川県大和市福田6-9-21 TEL0462-69-9911(代) 営業所 大和、埼玉、大阪、山形
工場 大和、山形

学科だより

菅野科学振興基金の設立

本学工学部および第二工学部機械工学科創設に尽力され、また初代の機械工学科主任教授をつとめられた故菅野玄之助教授および奥様(かめ)の遺産で「菅野科学振興基金」が設立されました。これは故菅野玄之助教授のご長男で、配位子場理論の国際的權威として、世界的な研究活動の推進に大きく寄与され、また現在も長野市において飯綱シンポジウムの運営などを通じて後進育成に尽力されております。東京大学名誉教授菅野曉氏ならびにご兄弟(菅野好彦氏、持田郁子さん)が一九九六年十月一日に設立された若手科学研究者育成のための基金です。以下この基金について紹介させていただきます。

学科だより

機友会賞受賞者

機友会賞は、学業によく励み、またクラスの団結に寄与した学生、あるいは特別な努力や学科のために非常に貢献した学生に授与される賞です。今年度は卒業式当日に次の学生に授与されます。おめでとうございます。

会長賞(四名)

30MD1232 水戸部 哲人
30MD2103 和泉 誠
30MD3207 小野 義法
30NM1212 後藤 欽司

機友賞(十名)

30MD1110 川口 太一
30MD1139 呉 英毅
30MD1230 真嶋 隆行
30MD2102 五十嵐 雄一
30MD2228 福吉 顕英
30MD3205 大岡 健一
30MD3211 日下 晃彦
30MD3230 松岡 一雄
30NM1201 池野 珠美
30NM1225 前田 明

平成八年度卒業生の中から次の方々が機友会の理事及び評議員に選出されました。よろしく願います。

機友会理事(四名) 川口太一、五十嵐雄一、大岡健一、後藤欽司
機友会評議員(四名) 真嶋隆行、福吉顕英、松岡一雄、前田明

学科だより

永年勤続表彰者

三十年 平井 弘三(技師補)
二十五年 野柳 宏(助手)
二十年 弓野 崇(専任講師)
二十年 長谷川寛行(二級技術員)
十年 川島 康(教授)

学科だより

機友会会費納入者

十年会費納入者(敬称略)

内田聡志、石井剛、奈木野清、片柳剛、宮田良久、山崎清人、常山潤、加藤寛、碓智朗、今村洋行、高倉得夫、原田淳一、康井義朗、村田省三、新田浩典、山根佳彦、須田幸彦、戸井田稔、最良茂忠、平部嘉爾、杉山晴一、佐伯明夫、太田智美、仲野秀信、井上彦、市川雅司、杉浦一浩、長崎修、窪田道雄、大塚博正、岡本直之、カンパ納入者(敬称略)

左記の方々は会費とは別に本会に特別カンパをして下さいました。ここに深く御礼申し上げます。

山本秀隆、清水直之、遠藤克己、竹本知博、大谷剛史、山本久雄、水野浩、寺崎健一、橋本純一、横山博、松永敏明、大竹靖雄、栗山幹夫、石田五十四郎、青柳順三、廣民

東海大学機友会平成7年度会計報告

平成8年3月31日現在

収入の部	(単位 円)	支出の部	(単位 円)
前年度繰越金	4,005,919	事務諸経費	381,559
平成7年度学生会費納入金	1,970,000	会報発行経費	2,095,802
既卒者学生会費納入金	464,203	卒業生勧誘事業経費	681,197
賛助会員会費納入金	330,000	賛助会員勧誘事業経費	118,918
会報掲載広告料	1,580,000	理事会諸経費	147,939
懇親会費および御祝儀	252,430	懇親会諸経費	539,417
預金利息	2,965	雑費	93,950
		小計	4,058,782
		次年度繰越金	4,546,735
合計	8,605,517	合計	8,605,517

平成8年10月26日 上記監査の結果、相違の無いことを認める。

監査 佐々木 新、伊藤昌久

編集後記

卒業生でもある台湾の陳さんにも参加いただいた総会により本会の新体制が決まり四月よりスタートします。また大学の皆様にもそれぞれの良きスタートがある事を祈ります。

男 石川芳弘、早野克祐、遠藤国正、岡崎敏彦、奥川朋高、北裕吉、葵謙二、永田治幸、井上博、佐藤百二、若谷昭、上野聡、松田亮典、湯浅好二、平井繁巳、潮田慎一、西岡司、串田賢忠、川上直祐、村越正美、佐原秀美、石島崇、築地豊、占部武志、岸修、木塚武史、山野和人、狩野耕一、遠山豊、内田聡志、堀切進、工藤謙、奈木野清、市川晴清人、荻野勲、戸井田稔、真島茂忠、杉山晴一、佐伯明夫、井上彦、市川雅司、関忠好、平成8年11月3日

信友印刷株式会社

〒108 東京都港区白金1-7-20
TEL:03-3444-2481 FAX:03-3444-2482
代表取締役社長 大矢 暁(1978年度動力機械卒)

自動機・パーツフィーダー

自動化設備のトータルプランナー

関東電子株式会社

Head Office 千葉県長生郡長南町市野々1648 TEL:0475-47-1188
Yokohama Office 横浜市磯子区原町7-29-402 TEL:045-761-4841
代表取締役 関 忠好(昭50年卒)